

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 シエナリゾート グループホーム ことぶき (I)	評価実施年月日	19.11.16
評価実施構成員氏名	施設長 小野寺 管理者 小野寺 計画作成担当者 小野寺 介護主任 高橋 介護員 両瀬 介護員 石田 介護員 田中	介護員 河合 介護員 山本 夜勤専門介護員 加藤 夜勤専門介護員 垣内中	
記録者氏名	管理者 小野寺	記録年月日	19.11.30

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念 私たちは一人ひとりに寄り添い、地域と交流しながら、安心の暮らしを支えます。 優しい…くらは愛 ほほえみ…楽しく、おだやか あんしん…より健やかにしあわせに	○	ケア理念(18.4.1) 優しい ほほえみ あんしん
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の朝ミーティングには、日々の場面においてやさしく接し、おだやかな一日をおくことと、安心の生活をフォローするよう取組んでいる。	○	安心の生活をフォローする
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	来所されるご家族には、その都度最近の生活の様子を伝える。地域には折りに触れてイベントに参加してもらったり、日常のお付き合いをさせていただいている。	○	地域でくらし続けていけるよう、普段からとなり組み近隣、町内会等とのふれあいを大切にし、安心の暮らしを支える。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	いつも近所の人とは挨拶したり、気軽におしゃべりしたりしている。イベントなどには気軽に来所してもらえる雰囲気をつくり出し、地区、地域の行事にも積極参加している。(朝日地区市民委員会運動会H19.8.8・地域町内会焼肉会H19・観楓会19.10.14への参加など)		
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域町内会の清掃、焼肉パーティ、観楓会、運動会などへの参加等、地域活動において交流している。(17年班長)近くの隣保会保育所園児(先生)との交流もあり。		
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	実習生(GH)の受け入れ2名を行っており人材の育成への取り組みをした。	○	地域での行事、会合、イベントに積極的に関わっていききたい。 施設見学は、いつでも随時受け入れ地域に役立つことに寄与できる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で取り組み、意識あわせ、ケアの振り返り見直しを継続して取組みながら、質の確保に努める。(くらしは愛、楽しくゆったり、より健やかに)		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	GHことぶき推進会議では日常生活上の状況を報告したり、行事イベントへの参加を通じて地域の理解と支援をお願いしている。		
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	過去には旭川市担当者の現任新人研修(16.11.4 10名)を受け入れたことがあるがここ数年から現在は特別になし。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している。入所者もあり、権利擁護などについて支援したり、学ぶ機会を得る。(ご家族への日常生活ぶりを報告)	○	成年後見開始19.1.22付 1名
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束0推進委員会(18.12.1)において随時関連法規について学ぶ機会を得ており、身体拘束、虐待防止に努めている。(倫理綱領)	○	私たちは暴力や虐待および身体的、精神的拘束を行いません。(18.12.1倫理綱領)
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約と説明はていねいに行う。家族等の不安点を把握し、あらかじめ希望する事項について、聞き取り、適切に対応するようにする。	○	食事、栄養、水分の経口摂取が不可能になることを始めとして、重度化急変、事故によるけがなど緊急的又は長中期の入院、病気治療が必要なときは解約の目安となる約1M以上をメドに理解・納得して戴けるよう説明する。(担当Dr、MSW情報収集)

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情はその都度くみ上げて、ケアや日常の運営に反映させる努力をする。(梅干、洗濯回数多い、入院などさせないで、入院検査はいらないなど)	○	ご意見箱の設置(19.10.31) 意見、苦情の出し易い働きかけ。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	積極的報告を心がけている。来訪時、又は適時に心身の状況のこと、日常生活の状態についてお話しをする。	○	あらゆる接点で日常生活の様子をご報告(来訪時は細部に亘り)金銭について、出納を定期的に報告。(手紙)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見、不満、苦情などは、いつでも真摯に受け入れ、前向きに受け止めより良いサービスに反映させたい。	○	ご本人、ご家族の苦情は速やかに確認しながら課題を検討、質の向上を目指す。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング(毎朝)を始め、日頃からコミュニケーションを取りながら運営に関する意見、要望をくみ取る。	○	毎月第3金曜日は、職員全体のミーティング会議を行い、意見、要望を聞き、意欲向上にもつなげていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	余裕はないが、柔軟体制を保持できるよう配慮する。(急な休み、その都度相互のシフト組み換え可能に)急変対応は管理者等が柔軟に体制をとる。	○	時間外、夜間対応、公休日者でも柔軟対応できる様体制をとる。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	必要最小限の離職を望んでいるが、引き抜きや家庭の事情など様々な理由がある。ご利用者ご家族に不満、不安を与えないよう配慮していく。	○	18.4～19.3までに退職者2名 (家庭事情×1、勤務成績不良×1) 離職率 22.2%

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJT,OFFJT、ともに段階的に育てる為に機会をもうけて教育している。研修は報告書にまとめ内容を共有できる様にしている。	○	介護福祉士国家資格取得へのOFFJT研修など、シフト組の配慮を行う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GH連絡協議があり、主催の研修会などに積極的に参加し、他者との交流や連携の取り組みを実践している。	○	旭川GHケア研究会 研修を通じて交流19年参加者6名 北海道認知症高齢者GH協議会 道北ブロック(事務局GHひまわり 59-5775)と交流し、勉強会に参加、サービス向上への取り組みをしている。(19年参加者1名)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員のはなしを聞き、ストレスなどの軽減に取組んでいきたい。 年2回程度の親睦会の機会を得て気分転換できる。	○	独立した休憩室は未設置、介護準備室兼用となっている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	向上心を持ち続けながら資格取得に向けた支援(シフト考慮)等を行っている。	○	OFFJT研修(勉強)の日程にあった勤務割りを実施中。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人が困っていること不安なことなど、よく聴き乍ら受け止める努力を継続していく。	○	ご本人、家族が何度も来訪し、職員と環境など生活全般について具体的な相談を聴き受けとめる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族等が困っていること等ニーズの把握と充分な話し合い、聞き取りを丁寧に行って初期の信頼関係を得る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援(内容)を見極めることに努める。	☐	他のサービス利用の情報の提供などの調整も行うことが必要と思うので取組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人、ご家族が何度も訪問してくれる。安心して利用して戴くため、職員、他の利用者との雰囲気徐々に馴染めるように努め工夫する。	☐	ご本人とご家族が4回以上(他の施設も複数以上)の回数を訪問して戴き職員とホームの雰囲気を感じてもらっている。(入所決定 19.11.18)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人主体の生活の過ごし方を続けながら、支え合っていく。	☐	生活のパートナーとして、共に支えあう。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との関係も一緒になって共に支えていく関係を築く。	☐	ご家族様とのより良い信頼関係を築く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人家族の関係がよりよく強く築いていけるよう支援。	☐	本人が生きいきとして元気になれば、家族と本人の関係がより良くなり幸福感・充足感が満たされる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	子、孫、兄弟、姉妹など馴染みの人との関係の継続をしながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	午前、午後のお茶タイムなど職員も一緒になって過ごし、利用者同士の関わり合いについて連携し、支え合う。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お手紙のやりとりや来訪時など関係の維持を大切にしている。	○	利用者さん長男夫婦、来旭時には、立ち寄って来れる。(契約解除19.5.11)(利用者さん契約解除19.1.20東京の長男さん寄ってくれる)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が、誰に会いたい、何をしたいかなどを把握して会える様にしている。	○	利用者家族(19.10)さん(長女の夫)に会いたい実弟に会いたい。橋渡しをして実現中。(訪問してくれる)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドアセスメントこれまでの暮らしぶりの把握に努めている。	○	生活歴の把握に努めている(生活歴綴り) 本人の為のケアに活かすことを目的としていて、プライバシーへの配慮を忘れない。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	くらしの現状と生活リズムの把握に努める。できることに注目し、本人の全体像をつかむ。	○	ケアの方向性、継続性に資する。QOLを目指す。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人の暮らしがより良くなるための希望や意向を反映したプランの作成を計担を中心にチームでつくる。	○	より良いくらしを実現するためのプランを家族と話し合い希望をくみ上げていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的見直しと共に心身の状況の変化に対応したプランの見直しを現状に即し、作成している。	○	要介護度の区分変更、(1件)について申請し、現状に即したプランの見直しを行っている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、ケアの実践、気づき工夫など情報共有、個別ケース記録に記入、プランなどの見直しに活かす努力をしている。	○	利用者さん、ストーマのむしり取り防止など、何度も話し合い、気づき工夫などの情報を共有している。(ストーマ造設19.1.30今は落ち着いた生活できている)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人とご家族との温泉一泊旅行とか外泊支援バードウォッチング、早出外出(泊)詩吟教室などの趣味活動への支援(早出、遅帰り、食事提供)(利用者さん姉弟への支援)	○	季節にマッチしたお出かけドライブ(お花見紅葉狩り、ドライブ、観楓会ほか)プラン。 買物、ドライブをする。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	19.5.25南消防署指導の防火訓練、消火訓練、避難訓練などを協力し乍ら普段から連携して支援中。	○	東警察署(2条交番)あて、不測事態、事件・事故に備えるため、職員名簿と施設見取図(各ユニット分)などの資料を提出した。(19.11.21)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他サービスの活用支援は特別なし。但し、必要に応じインフォーマルサービス(ボランティアの支援)をとり入れたい。	○	旭川市及び旭川市社協、地域の社協のボランティアの活用(行事・遠出などの支援人員確保)をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	豊岡・東旭川地域包括支援センター長の来訪を受け、何でも相談したり、長期的ケアマネジメント等について協議する態勢を整えたい。	○	地域包括支援センターとの情報交換協力関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医師(なじみのDr)による継続的医療を受けることができる様支援している。	☐	内科Dr 整外Dr
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	日赤定期受診時に(外科・脳外科)以外に認知症の専門医に治療を受けている。今後も指導を受けられる様支援する。	☐	利用者さん 日赤病院(精神神経科)Dr 認知症進行しているので専門的指導をうける。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職を配置中であり日常の健康管理、医療活用の支援を実施している。(24時間の状況判断可、報告可)	☐	施設長 24時間自宅待機中。報告、連絡、相談、指導仰ぎ可。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	関係者との情報交換や現況の確認を行う。早期に退院できる様協働する。	☐	医療ケースワーカー(MSW)との綿密な連携をとり、早期に入院日時を達成し退院につながる様、必要な支援を行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	その時々本人、家族の意向を確認しながら普段の健康管理と急変時に対応する。(終末期、重度化に対応しない、事業所である)	☐	終末期、重度化に対し対応しない事業所であるが本人、家族の意向を確かめて日常の健康管理と急変時に対応する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期、重度化に対応しない事業所である。	☐	施設などへのターミナルケアの理解と関心を深めていきたい。将来的には体制を整えて支援することに取組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り住む先への関係者への情報(状況、習慣、好み、ケアの工夫等)を詳しくつたえている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	誇り、プライバシーに配慮することは、日常的に確認している。個人情報もれないよう秘密保持を徹底する。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が飲みたいもの(甘酒、りんごジュースなど)食べたいもの(お鮎し、焼き芋、パンなど)希望などを見極めながら自らきめたり、納得してもらえる支援をしている。	○	まちのパン屋さん週1回訪問販売あり、自分で決めて買っている。近くのスーパまで、乗用車で買もの用事たし。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所者本人一人ひとりのペースを大切に生活を支援する。おしゃべりを楽しんだり、カルタや百人一首カラオケ、歌を唄うなどをして過ごす。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご家族が毛染め、カットをすることもあり、義姉が市内のなじみの美容室に同行するなどおしゃれを支援する。他に美容室を利用しパーマ、顔そりなど外出時の身だしなみを援助、助言している。	○	訪問美容室ミューテの定期的支援がある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前のテーブルにおしぼり、お茶、水などのセッティング、食事後のおぼん拭きなどの後かたづけをするなどの見守りを支えながら支援する。	○	ナツメロほかのBGMが流れる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	養命酒、コーヒー、タバコなど周囲の方々の配慮をしながら日常的に楽しめる援助をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンをおおむね把握し、トイレ誘導をこまめにさりげなく支援中。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現ローテーション人員では昼間のみW/3回程度の支援にとどまる。拒否者に対しても声かけ、対応工夫を試みている。	○	職員定員の増加が実現可能時には朝風呂、夜間入浴などが可能であり、より高い満足が得られるので将来的目標として取り組んでいく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	真夜中に寂しく不安になり眠れない。食堂・談話室のソファで職員、優しく寄り添いながら安心して朝まで安眠している。個別の休憩、お昼寝も寄り添っている。 (介4 利用者さん88歳)	○	その人のベッドで寄り添い乍ら添い寝したり、様子を観察、安心して眠ってもらう。(19.11.25介4 利用者さん84歳)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	秋大根の干し作業の手伝い、野菜のつけものの作業などほかに、枝豆もぎ、もやしの芽とり(夏～秋)。よもぎ餅つき会(19.6.13)お正月のあんこ餅づくり(18.12.28)に参加役割と楽しみを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	パン屋さんの訪問販売あり、自分の好きなものを希望どおり買う事ができる。近くのスーパーまで付き添いで好きなものを買う楽しみなど支援する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	春～夏～冬にかけては、お天気の良い時は努めて近所町内会の散歩、午前中は日当たりの良い東側広場でのお茶のみ、おしゃべりなどを実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個性の高い特別な外出は今のところ実現していない。但し、ご家族が同伴しての小旅行などでは旅行の準備など服装、持ち物ほかの支援がある。	○	利用者さん…小樽日帰り旅行(19.2.25姉と) 利用者さん…バードウォッチング早朝外出、姉と一緒にニセコ1泊2日 利用者さん…東京2泊3日の旅(娘さん二人同伴)19.10.27～29 大雪山系旭岳登山口までのドライブ外出(18.11) 忠別ダム湖見学ドライブ(19.10.7) 道草館アイスクリーム休憩19.10.7 東川町遊水公園遠足ドライブ、鯉にエサやり。弁当持参19.9.5
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取次ぎ、電話かけることいつでも支援中、お手紙も口述筆記の援助を行い、ご家族にも報告している。(自前のTEL4名保有中)(1F 事務所・2F介護準備室)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問し易い雰囲気と対応をいつも心がけている。心から歓迎する。本州からの訪問は泊まってもらうなど本人と家族がゆっくり過ごしてもらう。	○	Ⅱ利用者さん妹(札幌市)1泊2日(19.2.17(土)～18日)) Ⅰ利用者さん長女一家(千葉県) 一家 9泊10日18年夏 Ⅱ利用者さん妹(横浜市)6泊 19.6.20～6.25
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全員が身体拘束の内容と弊害を認識していて、日常のケアにおいて拘束ゼロのケアを実践する。	○	身体拘束0ゼロ推進委員(組織図)17.12.1現在 厚労省ガイドライン 例外として認められる要件(別紙)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ご利用者個々の立場に立って考え、日中は玄関オープンで日常生活を支援する、努力する姿勢を徹底する。(オープンの時もあり、気配により施錠もあり)	○	ご利用者の安全を確保しながら日中玄関の鍵をかけないで済む工夫を継続していく。出て行く気配を見落とさず見守り連携プレーをする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼、夜共に見守り易い位置にいて様子観察ができる様、工夫している。夜間は定時巡回と、随時巡回(気配、物音、水音)して、生活の安全に配慮中。	○	日中、夜間帯及び休憩時間帯ともに五感(官)を働かせて、気を配る。(気配、物音、足音、臭い、カーテンの音、水の音ほか)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、刃物などの管理に充分配慮し危険の未然防止に取り組んでいる。	○	洗剤類は、鍵のかかる収納に収めて施錠して管理中。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、防止対策を行うよう取り組んでいる。自室での転倒、尻もち転倒などがある。(ヒヤリハット) 誤嚥のリスクの高い人の食事介助、服薬介助について安全介護を徹底する。	○	アジの魚の骨が咽喉の左奥にささって咽喉科での抜き取り処理(X線麻酔)をうけた(19.10)魚料理の骨取り、注意喚起を充分行って介助する。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	特に夜勤帯における急変・事故対応について症状により応急処置、救急救命処置を行うと共にバイタル測定ほか症状は状況により救急隊の要請、家族への連絡、上司報告などを行う。	○	定期的訓練は想定にもとづく図上訓練を随時行う。 (実技訓練…消防署による実技講習受講者2名)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	昼夜問わず避難誘導ができるように普段からの心構えを準備していく。普段から近隣・地域の人びとの協力を得られる様にする。	○	消火訓練避難訓練は南消防署指導により地域住民近隣と連携し協力を得て実施した。合計46名参加(19.5.25(金))
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族との信頼関係づくりは普段から築いており起こり得るリスクについていつも率直に話合っている。見直しも随時に行う。	○	状況変化に対応した説明をいつも心掛ける。 特に夜間自室での転倒などのリスク(ヒヤリハット)高く率直に話す。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	顔色、顔貌、様子をいつも注意する。いつもアセスして兆候を見逃さない。変化やサインに対応して報告、記録する。 情報は共有して、その後医療につなげる等の対応を行う。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を把握している。ファイルの整理、整頓、服薬時本人に手渡し、服用を確かめる。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤を用いてる人もあり、予防に向けて状況に合わせて繊維質、乳製品食品もとりに入れている。日常的活動、散歩など身体を動かす機会を多くしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の清潔、日頃より心がけている。個別に介助、声掛けにより支援する。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養、摂取量、水分量を大まかに把握して個別に記録中(摂取割合記録) 1日に摂取すべき水分最低必要量 1, 300ml(最低必要量)/日	○	(目安) 栄養 BW 1 kg当り 30cal 45kg×30カロリー=1, 350cal 50kg×30カロリー=1, 500cal (目安) 水分摂取量 1日当り高齢者(最低必要量) 1, 300cc
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルスの感染予防など国、道、市などの通達に基づき、機会教育を実施中。インフルエンザ予防接種は入所者全員接種予定、職員は任意にて接種する。	○	19年ノロウイルス対応研修受講 5名参加 19.11.2 (旭川市保健所) 19.1.26(保健所) 19.9.18 (" ") インフルエンザ予防接種(19.10.15～20.1.31まで)支援

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日の調理用具等の衛生管理を徹底する。新鮮で安全な食材の計画的取得、使用している。(食中毒予防、三原則実践中 1. 手洗い 2. 加熱 3. 迅速)	○	台所・調理用具の清潔、衛生管理方法取り決めあり実践中。包丁、まな板、ふきんの漂白(マイキッチンブリーチ)、計画した食材の買物など。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	いつでも誰でも入り易い玄関まわりの工夫をしている。	○	季節の鉢植えの花も飾り違和感のない配慮をしている。内玄関、ホールなどにも活花などを飾る。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間はいつも居心地の良い、安心感のある過ごし易い工夫を行う。	○	玄関EVホールに生花を活けたり、季節の花を摘んで来て即席に飾ることが多い。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの居場所、3条本通側に藤椅子1脚と一人用椅子を配置、外の様子や仲良しと思い思いに過ごす事ができる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談しながら使いなれた家具、好みのものを活かして本人が居心地よく過ごすことができる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入換えや温度調節にいつも気を配っている。(2時間毎の空気の入替え基準)	○	温度は適時随時に温度計などで管理、換気をする。湿度は、本人の洗濯物、湿ったタオル、バスタオル等で調節、適湿度となるよう努力する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (概に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段の滑り止め、手すり、各テーブル内の間隔椅子とソファ間の間合いなどいつも注意してつまづき、接触に注意。	○	収納、クローゼットの衣裳ハンガーは高い位置にあるので注意をもって介助、援助を行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱を招くような環境の原因に気が付けば直ちに工夫したり、改良する。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りにはプランター花鉢を飾って手入れしたりベランダではお花畑が近くにあり、育てたり水やりをして楽しむ。	○	プランタ鉢花 ⑩鉢以上を配置して手入れし、楽しみがあった。(花株480株 地域緑化事業助成分)

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない 個々の思いや願いなど意向をくみとって、一緒に暮らしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ○②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ゆったりとした時間が流れ、暮らしている場面もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 個人、個人マイペースで暮らすなかで、さりげなく援助している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 職員が毎日の暮らしの中で寄り添い支援していることで明るく生き生きとした表情などがみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない できる範囲での戸外散歩、戸外お茶のみ、近くの散歩コース、スーパー買物、食事ラーメン屋など出かける機会を得る。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 定期、随時を問わず医療機関への係り、かかりつけDrとの指導受など生活安全面で不安などなく過ごしてもらう。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 柔軟かつ状況などに適した支援を行い安心の暮らしを支える。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ○②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない 信頼関係の構築はできており引き続いてコミュニケーションを図りつつ継続していく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 近所、近隣、町内会の方々と行き来がある。(助け合っている)

V. サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 推進会議、構成員、地域町内住民の方との関係がより緊密になり理解者が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	○①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない 概ねはつらつと元気よく、よく気を配った働きが出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない 概ね、生活のパートナーとして満足しているものと思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない ご家族様との信頼関係築いており、良き理解者とし認めてもらっているものと思料する。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

毎日の暮らしの中でゆったりとした日常生活と、楽しみや趣味活動、季節折々の行事、催事、外出、ドライブなどを積極的に取り入れて実践中。入所者の皆様、ご家族共に人生の歓びを得る。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 シェナリゾート グループホーム ことぶき (Ⅱ)	評価実施年月日	19. 11. 16
評価実施構成員氏名	施設長 小野寺 管理者 高木 計画作成担当者 高木 介護員 佐藤 介護員 田中 介護員 藤田 介護員 長岡 介護員 細川 介護員 倉本	介護従事者 (調理) ... 介護従事者 (調理) 能代	
記録者氏名	管理者 高木	記録年月日	19. 12. 3

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念 私たちは一人ひとりに寄り添い、地域と交流しながら、安心の暮らしを支えます。 優しい…くらしは愛 ほほえみ…楽しく、おだやか あんしん…より健やかに幸せに	○	日常的に教育機会を設けていく。
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	一人ひとりの気持ちを尊重して、ペースに合わせた行動、全てにおいて優しく接し、穏やかで安心な生活が送れる様に、職員とも話し合っています。	○	穏やかな気持ちで、生活リハビリを見極めながら、一緒に生活して行く。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	パンフレットや、掲示板ボードに明示しています。 家族にもそのつど、生活の様子を伝え、説明をして、同意を得ています。 地域には折に触れ、イベントに参加してもらい理解を頂いております。		
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方には、気軽に挨拶をかわし、町内会の活動である観楓会参加、廃品回収の協力をして、来所もして頂き、一緒に楽しめる行事も行っています。 町内会会長、副会長は、ことぶき運営推進会議構成委員で協力を頂いています。	○	近隣の人々が、いざという時には協力してくれる様に、普段から信頼関係を築いて行きたいと思います。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会行事の案内があれば、全てに参加して交流をしています。 近隣の保育園の園児を招いて餅つきをしたり、夏祭りに町内会の方々を招待したり、町内に在るラーメン屋に出かけて外食したり、交流に努めています。	○	入居者が楽しく参加出来る行事を、増やしたいと思います。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内集会の他、地域の方々から認知症の相談を受け、地域包括支援センターや市役所の相談窓口の気軽な訪問を勧めています。	○	町内の方々を対象に、介護予防や認知症に対する理解など、話し合える場を設けたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果に基づき、廊下スペースに椅子を置き、くつろぎの場にしたり、ご意見箱の設置など改善をして、サービスの質の向上に努めています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所の取り組み内容を説明して、理解をしてもらい、具体的な防火対策や、いざという時の避難場所等についての意見をもらっています。	○	運営推進会議で、外部評価の結果を公表し、構成委員の方々の意見、要望を受け入れ、サービス向上に活かして行きたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者との研修会には必ず参加して、実態を把握する様にしています。	○	市担当者との交流を深め、事業所の実情などを伝えていきたいです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している方もいて、制度についての理解はしています。今後も必要と思われる方には、支援して行きたいと思っています。	○	成年後見人制度の研修会などに参加して、職員の認識も深めたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングなどにおいて、入居者に対する言葉遣い、表情など話し合っています。職員同士で意識を持ち、身体拘束、虐待が行われない様にしています。	○	玄関の施錠は、家族にも説明して、理解を求めています。日中の施錠しないケアに努めたいと思います。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の明示、説明をしています。家族からの十分な情報、アセスメントを行い、納得の上、不安のない状態で入所してもらっています。緊急時、長期入院加療（一ヶ月をメドに）が必要な時は、退去解約の目安や、今後の受け入れ先について、関係者と家族と十分な話し合いをしています。	○	入所時に、今後の重度化や、医療体制についての話し合いをしたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の態度や言葉からも、心理を見極めて対応する様に指導しています。食事等の意見は多々聞き入れて反映されています。ご意見箱の設置もしています。	○	外部者への相談がある時には、公的窓口の紹介も行いたいです。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の訪問時には、職員がお茶の接待をかわさず、普段の生活ぶりや、体調を常に報告しています。金銭管理については、出し入れの明細を、毎月渡して報告しています。	○	職員の移動のつど、家族にも報告して行きたいと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの相談、苦情の受付窓口は明確であり、対応は管理者が速やかにしています。ご意見箱の設置もしています。	○	外部者への相談がある時には、公的窓口の紹介も行いたいです。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティング時や毎月一回の職員会議に、意見、要望を常に聞き入れ、話し合いをして、回答を伝える様にしています。職員が意見や提案を出しやすい環境、雰囲気づくりに配慮しています。	○	個別面談の時間を設けて、意見、要望を聞き反映して行きたいと思っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務シフトは、職員の希望を配慮したり、急な休みには交代を取り、よく話し合いながら無理のない様にしています。夜間の緊急対応などについては、管理者が柔軟な体制をとっている。	○	行事、外出時には、余裕をもった人員確保をしています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員移動の時には、入居者に説明、挨拶をして引継ぎを行い、馴染める様に配慮している。採用時には、ケアに適した人材を優遇しています。	○	各ユニットの職員の固定化をしていないので、馴染みの職員が休みの日などに、確認をしてくる入居者もいたり、不安を与えない様に対応して行きたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員研修や学習会には、交代で参加して、報告書にまとめ、内容を共有出来る様にしています。介護福祉士の資格取得の為に講習などには、シフト組みに配慮して、向上心持てる様に支援しています。	○	介護員としての資質向上に、学習や資料提供を設けて行きたいと思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡協議会主催の研修会などに参加して、事例検討などで、外部の意見や経験を聴き、ケアの質の向上に努めています。	○	地域の同業者との交流をもって、日々のサービスのあり方や、向上に向けての意見を交換する場を設けたいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の話を良く聞き、悩みを把握する様にしています。職員からの意見には、返答、改善を速やかに対応する姿勢を心がけています。休憩も交代で取れるように配慮しています。	○	他の事業者との交流で親睦を図り、ストレスや悩みを軽減する機会を設けていきたいとおもいます。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者も、現場で起きている状況や変化を、職員からの報告を聞いて、職員の努力や苦労を把握する為にも、入居者と過ごし、労いの言葉等でやりがいを感じられる職場づくりに努めています。向上心を持って資格取得に望む時には、シフトも配慮して支援しています。	○	職員が望む職能手当金なども考慮して、向上心を持って働ける様にして行きたいとおもいます。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人と家族が何度も来訪して決め、本人の求めている事を把握し、安心して生活が出来て信頼関係をつくれるように、訪問して事前面談を行っています。	○	家族の要望と本人の意思がくいちがっているなどの場合について、十分に本人を受け止めて、対応出来る様に努めたいです。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人と家族が何度も来訪して決め、訪問して事前面談を行い、これまでの家族の苦労や不安を聞き入れ、家族の状況を把握して、安心して入所出来る様に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	訪問して本人と事前面談を行い、状況を見極め、家族の要望を把握しながら支援をしています。	○	他のサービス利用も、必要に応じて取組んで行きたいと思います。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居後に家族などの訪問、協力を仰ぎ、他の入居者と馴染める様な雰囲気づくりをして、安心して生活が送れる様に充分話あっています。	○	人間関係を築くのには中々難しいですが、事前に遊びに来て頂いたり試みたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者は人生の大先輩であるので、長い人生に感謝と敬意を抱き、共に過ごして、学びながら支えあう関係づくりに努めています。	○	毎日の会話や行動から、人生を感じとり、安心した生活が送れる様に支援しています。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの話を聞き、得意な事は実践していただき、共感しあいながら本人の想いなどを把握して、家族に細かく伝える様に努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の訪問や家族との外出、外泊を勧めています。行事などに参加して頂いて共感して、本人の想いや状態を把握し、より深い絆が結べる様に心がけています。	○	疎遠になっている家族に対しても「ことぶき新聞」などの会報誌を送ったり、本人の状態を連絡したりする様に心がけています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	子供、兄弟、姉妹、友人など馴染みの関係を把握して、訪問時には、これからも関係が途切れない様に働きかけています。	○	これまでの馴染みがあっても、出かけて行く事が困難なので、家族に訪問が出来る様に相談して行きたいとおもいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	昼食時は職員も一緒にテーブルに着き、和やかに会話をしながら、入居者同士の関係も円滑になる様配慮しています。好むゲーム(百人一首)もあり、職員も一緒に楽しんでいます。	○	居室にいる時は、ほとんどの方が臥床しているので、娯楽室に誘導して、お茶を飲んだり、会話をしたりする様に心がける。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院による退去者には、時おり尋ねており、家族より連絡があったり、家族が来所してくださるケースが多いです。他の事業所に移った方にも行事に来て頂いたりしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの言葉や表情から真意を引き出して、職員同士で情報を共有し、親身になって取り組んでいます。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や以前の事業所に、生活暦やこれまでの暮らしぶりを聴き取ると共に、本人の話からもケアに活かして行けるように努めています。	○	知人、親戚の人からの情報は、少しずつ伝えもらえる様に努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活のリズムが、ほぼ定着しているので、一日の行動(食後の食器洗いから片付けなど)や体調の変化を見極めて、現状を把握するように努めています。	○	一人ひとりの出来ることやしたい事を把握していますが、職員が先にしてしまう事があると思いますので、手を出さずに、本人の今もっている力を維持出来る様に、見守りに配慮したいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や以前の事業所からの情報、意見を十分に活かして、本人の性格、思想を見極め、職員全員でカンファレンスを行っています。	○	職員と新しい発見、変化に応じての話し合いをしますが、職員が書面に記入する物が無く、情報記入シート(センター方式D-1)などを活用したいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	心身の状況変化や、実情に応じて、プランの見直しをしています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の変化や気づきは、個別のケース記録に記載し、朝のミーティングで報告されたり、職員間の情報交換により、実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況に応じて、医療機関の対応は、夜間救急も定期通院も柔軟に対応している。 重度化した入居者に対しても家族の要望に応じて、医療行為（胃ろう、中心静脈カテーテル）で入院が必要となるまで、介護を支援しています。	○	家族の要望や本人の意向が、看取りについてあった場合に伴い、意識、知識を高めたいと思います。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署と町内の方の協力により、防火避難訓練を実施しました。2条交番には、施設の見取り図、職員名簿を提出しており、情報交換が出来る様になっています。	○	周辺施設への外出活動は実施していないので、体調、状態によっては、公民館活動など参加して行きたいと思います。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の活用支援は特にしていませんが、必要に応じて取り入れたいと思います。	○	旭川市の保健福祉サービスや社協のボランティアの見守りサービスなどを利用して行きたいと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	近隣の（豊岡・東旭川地域包括支援センター）（東光・千代田地域包括支援センター）とは、情報交換をしたり協力関係を築いています。	○	近隣の「中央地区包括支援センター」とも連携を図りたいと考えています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入所前からのかかりつけ医や、家族の希望する医師に受診をして、本人が安心出来る様に配慮しています。診療後には、家族に診断情報を報告し、介助職員は、受診結果をケース記録に記載して、職員全員が共有出来る様になっています。	○	入院時など、医師から付き添いの要望などがあった場合に、家族対応も困難なケースが多いので、緊急時の医療機関の選定を家族と相談して行く様に心がけています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関は、認知症の専門医でなくても理解をもち、適切な指示や助言をしてもらっていると感じて信頼しています。認知症の専門医に定期受診している方もいて、投薬支持や、助言を仰いでいます。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関は、24時間対応が可能になっています。施設長が准看護師であり、報告、相談、指導を仰ぎます。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時点から、精神面のダメージを考えて、本人が安心出来るよう、お見舞いにも行き、馴染みの関係を断ち切らない様にしています。医療機関とも話し合い、対応可能な段階で、退院が出来るよう相談しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に伴い、対応の出来る最大のケアについて説明をし、それを踏まえた上で家族の要望に応え、医療行為(胃ろう、中心静脈カテーテル)で入院が必要となるまで、介護を支援しています。	○	家族の要望や、本人の意向が、看取りについてあった場合に備えて意識、知識を高めたいと思います。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の対応はしていません。	○	将来的には体制を整えて、支援する事に取り組んで行きたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の事業所に移られた時には、先方の担当者に、本人の詳しい支援状況やケアプランを渡しています。時おり訪問をしています。	○	他の事業所に移られる場合は、ほとんどが本人の意思ではなく、家族による都合があったと思われますので、今までの生活が損なわれないように、情報提供を心がけています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個々の考えを尊重して、思いやりの気持ちを持って接する様に心がけています。 プライバシーに配慮する事は、常に認識しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	レクリエーション(百人一首など)の希望があれば、即実行したり、買い物の希望には、一緒に外出して選べる様に配慮しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの動きに合わせて移動し、居室で手芸を楽しんだり、ゆったりと新聞やテレビを観たりする時間を大切にしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入浴時には、着替えの準備を一緒に考えながら用意します。朝は各自の好みによりおしゃれをしています。 行事の時には、和服を着て出席するなど、その場その場に合わせた楽しみをしています。 訪問理美容が毎月定期的に来て、希望者は利用して、カット、パーマ、顔そりをしています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューは好みを聞いたり、味見をしてもらったりしています。 下準備の手伝い(もやしの芽とり、ジャガイモの皮むき、ゆで卵の皮むき、他) 漬物支度の皮むきなど、3~4人でテーブルを囲んでします。 毎食の片付けもしています。	○	一緒に調理場に立って調理をする事はしていないので、出来る様な時間配分を考えて行きたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこは、一日5～6本の喫煙者がいて、場所を決め、時間もほぼ決めて楽しんでいます。おやつは、家族が持参した好みの物については、時間を見ながらお渡しして、食べてもらいます。	○	飲酒は、家族も希望してないので、現在はおりません。以前、家族の希望で、夕食前にコップ一杯のお酒を呑む方がおりましたので、本人の希望があり、家族の同意によりすすめていきたいと思います。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンをおおむね把握して、トイレ誘導を促しています。オムツを切り替えて、パットの使用で支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯が決まり、週3回程度の支援になっていますが、一人で一時間程度利用する方や、お湯の温度など、個々の希望で入浴を楽しめる様に支援しています。	○	曜日や時間を決めないで、希望時に入浴可能な業務に取り組んでいきたいとおもいます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	寝付けない時には、お話をしたり、添い寝をしたり、夜間に起きて介護員の姿に安心する様な時には、状況に応じて介護員の側のソファで、朝まで安眠できる様に支援しています。	○	就寝前に、不安が無く気持ちよく安眠出来る様な支援をして行きたいと思います。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理の下準備、枝豆もぎ、豆より、おはぎづくり、あんこ餅丸め、漬物の作業など、出来る力を発揮して、楽しんで参加してもらえる様な取り組みをしています。	○	出来る人、出来ない人の判断をせずに、参加出来る状況をつくり支援して行きたいとおもいます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物外出をして、好みの物を買ってきます。毎週月曜日に、訪問販売員が来て、好みのお菓子、パン、飲み物を買ったりして楽しみます。	○	通常は、入居者が現金管理をしておらず、買い物時だけにしていますが、機会を増やし、楽しめる様に行きたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、外でお茶を飲んだり、散歩をしたり、なるべく外に出て過ごす時間をとっていました。	○	冬期間の外出が少ないので、体育館や施設活動を取り入れて行きたいと考えています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	四季を感じてもらえる様に、春はお花見、秋には紅葉狩りと、弁当持参で出かけます。他、いちご狩りや近隣のラーメン屋へ食べに行ったり、冬祭り見物したりしています。温泉希望の方は、家族が連れて行き楽しんでいます。	○	職員との温泉行きは、まだ実現していませんが、今後状況に合わせて行きたいと思います。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の申し出の時や、気分転換になる様な時には、家族に電話をかけて安心してもらっています。	○	本人が希望して兄弟に手紙を書きましたが、内容が意味不明との事で、家族の判断で持ち帰り、本人の意思を尊重して出してもらいました。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問時には、いつもの様子、出来事をお知らせし、お茶の接待をかわさず、さりげなく間を取り持ちながら、いつでも時間を気にせず訪問出来る様に声かけしています。家族が地方から尋ねた場合、何日でも宿泊を歓迎して、食事を共にしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が拘束の内容と弊害を認識していて、拘束しないケアを心がけています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	オープンの時もあり、気配によって施錠の時もあります。個々の立場になって考え、日中はオープンの生活を支援する様に努めます。	○	日中、玄関の施錠をしないで済む、見守りケアを重視していきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中に居室で過ごしている方ほど、安全確認の為に、声かけをして、様子をみる様にしています。夜間は、水の音、カーテン開く音、咳、くしゃみ、足音などに気配りをして見守り重視しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室でつくろい物をしたり、手芸をするための縫い針の管理は、本人と確認をして、居室に保管しています。くだものナイフも、居室で使用出来る方は、確認をして居室に保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止の為に対策(二部屋に手摺を設置)をしたり、見守り移動、声かけをしています。誤嚥のおそれのある方には、食品を変えたり、トロミづけをして、状態に応じた取り組みをしています。事故が発生した場合、速やかに報告、正確に記録をして、再発防止に取り組んでいます。家族にも速やかに報告をします。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	特に夜間帯における急変、事故対応について応急処置、救急車要請、家族への連絡、上司報告などを行う。	○	職員全員が、対応の方法を講習する様に指導します。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、近隣住民も参加しての避難訓練を実施し、誘導や、消火器の使い方の指導を受けました。万が一の時の避難場所について、近隣の家から申し出があり、協力体制を築いています。	○	定期的訓練は、想定にもとずき随時行いたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の力の発揮している場面や状態を家族にお伝えして、事業所の取り組みを理解していただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや顔色などで、体調変化や異常に気づいたら、変化時の記録をして早急に対応しています。夜間帯については、変化の発見時、報告をして支持を仰ぐ様にしています。	○	夜間帯の異変対応が、速やかに行えるよう、勉強会を設けたいと考えています。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の管理を徹底し、服薬時に手渡しをして、服用終了まで確認をしています。錠剤で誤嚥の危険がある時には、医師に相談の上、粉末にしています。状態変化については、記録し医師の診察時に説明すると共に、診察後に薬の変更が有った場合、記録をし、職員全員が情報共有し、其のつと家族にもお伝えしています。	○	薬の目的や副作用に対する勉強会を設けたいと考えています。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄パターン把握して、食事でも繊維質、乳製品も取り入れています。下剤を服用している方も、必要最小限にとどめ、水分摂取や運動を促しています。	○	冬季間の外出が無く、運動不足になりがちなので、室内での体操を多くしたいと思います。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後のうがいや、義歯洗浄の介助、声かけもして、口腔内の清潔に心がけています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分補給は、起床時や体調に合わせて行い、量をおおむね把握しています。食事でも個々に合わせた好みや形により、全量摂取出来る様な配慮をして、摂取量を記録して、職員全員が意識して支援しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の講習会(19.1/26・9/18・11/2)に出席して、職員が意識して手洗いと消毒を徹底しています。	○	職員のインフルエンザの予防接種は強制せず、自主接種にしていますので、数名のみになっています。全員が意識を持って接種するようにしたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理場や調理器具の消毒を徹底しており、食材はこまめに鮮度の確認をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の壁色を明るくして、周りからも違和感の無いようにしています。玄関前には、ベンチやプランターを設置したり、花壇を造ったり、夕方から夜間帯の外灯点灯を実施しており、外観も明るく家庭的な雰囲気づくりに心がけています。		
81	○居ごちのよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居ごちよく過ごせるような工夫をしている。	娯楽室には畳が有り、くつろげる雰囲気づくりをしています。内玄関には、園内栽培の季節の花を摘んで常に飾っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	娯楽室で食後に4～5人で会話を楽しんだり、新聞を見たりして過ごしています。	○	喫煙者の周りの入居者に対して、配慮不足になりがちなので、喫煙場所を考えていきたいとおもいます。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には、今まで家庭で使用していた馴染んだ家具(仏壇なども可能)の持込をお願いして、家族の写真を飾ったりしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の温度調節は、こまめに周り管理しています。湿度は暖房の上に洗濯物を干したり、バスタオルを濡らして置くなどの工夫をしています。	○	冬季間は、窓開放による換気が不足になっているので、外気の入れ替えをしたいとおもいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	機能維持の為に二箇所の階段を上がり下りしている方もいて、手摺、階段の滑り止めなどの、破損確認と安全確保に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	食堂の座る場所、椅子の位置で不安や不満が起きない様に配慮しています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	東側パーキングのアスファルト工事をして、車椅子でも移動しやすく、テーブルを囲み、お茶を飲んだり、歌を唄ったりして活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 希望や意向を表現しない方もいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない お茶を飲みながら会話を楽しんでいる場面がみられる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 無理せず、マイペースで生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 職員に感謝の言葉をかけてくれている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 季節を感じる外出を実行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 通院介護を通して、Drの指導など安心出来る説明をしている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 要望に応じて個々の外出他、速やかに聞きいれてい
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない 感謝の言葉や労いの言葉を頂く事が多い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 家族は一月平均120人程の来所訪問してくれる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 地域住民との関係が密着になって、避難場所に申し出てくれる家もある
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない 頻回に意見を交換しながら、ケアに取り組んでいます
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない 入所当初より、表情豊かになり、意欲的な生活を送っている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない 感謝の言葉や労いの言葉を頂く事が多い。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)